

ひだまり

平成19年度の事業活動を振り返って

松風台社協会長 那須 嗣夫

本年度は、これまでの事業の継続に加えて①歌の街、②子ども会とのコラボレーション(公園清掃)を新しく立ち上げた。「歌の街」は必ず来る超高齢化時代を見据え、老化防止・健康維持のための、誰でも参加できる楽しい歌の集いを目指した。ここでは昔流行ったなじみの童謡、小学唱歌、民謡、歌謡曲を取り入れ、毎回30名程の方の参加があり、概ね所期の目的を達成しているのではないかと自負している。このアイデアは前年度の社協役員からの申し送りで実現したものである。社協がカバーすべき範囲には子供さんも含まれており、何とかお年寄りとのコラボの実現を図りたいとかねがね考えていたが、子ども会と特に松風会の協力により公園清掃、工場見学、昔の遊び体験を実現することができた。このコラボを通して双方が楽しい一時を過ごせるとともに、顔なじみになることにより防犯活動への一助となることを念じている。その為にも今後の継続が不可欠である。

第6回福祉講座 (2月17日実施)

『後期高齢者医療制度』について

この4月から75歳以上の方が現在の老人保険制度から新たに設立された後期高齢者医療制度に変わるのに伴い、市の健康づくり課の職員にお願いして、どう変わり、保険料はどうなるのか等について説明していただきました。寒い中35名余りの方が熱心に耳を傾けておられました。

急速な高齢化に伴い、老人医療費が

である。

増大する中、現役世代と高齢者世代の負担を明確化し、公平で分かりやすい制度とするために、75歳以上の人および一定の障害がある65歳以上の人を対象に新たな制度を創設することになった。現在の老人保険制度との違いを挙げてみると、①制度の運営は、市町村に代わって神奈川県全市町村が加入する「広域連合」が行なう。②現在の国保・社保からは脱退し、神奈川県後期高齢者医療制度に加入する。③受診するときは、「後期高齢者医療保険証」を提示するが、受けられる給付はこれまでと変わらない。④保険料は神奈川県内で統一され、原則として一人ひとりの年金から天引きの形で市町村に支払うことになる、など

では、保険料はどうなるのであろうか？ 一般的に言うところ、現制度では妻は夫の扶養家族となっていて保険料は夫の負担になっているが、新制度では夫と妻それぞれが保険料の対象となるので、妻の分が増え、夫の分が減ると考えられる。また、一人当たりの定額「均等割り額」と所得に応じて負担する「所得割り額」の合計となるが、所得が一定以下の人には優遇措置も考えられている。つまり、一般論としては年収の多い人は負担が増え、年収の低い人は負担が減ることになるようである。

(文責 原)



第2・第4水曜日は「ほっとサロン」へ

お一人で、グループで利用していただいている「ほっとサロン」も3年が終わろうとしています。顔なじみの方が増えました。松風台の中で、「こんにちは、寒いですね」と挨拶し、「水曜日、お待ちしております」とお話できるのも地域にあるおかげでしょう。1月も「一度覗いてみたかったです」と、新しいお客様がありました。限られた広さの中の、手作り「サロン」。お客様のご希望にそえないこともあります。が、おいしいコーヒーをいれてお待ちしております。

毎月第2・第4水曜日

13時～15時開店

松風台社協サロン部会

責任者 磯野 瑠美子

「こんにちは」民生委員・児童委員です

伊藤和子

初めまして。昨年12月1日、民生委員・児童委員にご指名を受け、松風台の代表として皆様のお手伝いをさせていただくことになりました。私自身何も分からないことばかりです。皆様のお力をお借りしながら一つひとつ進めていきたいと思っております。また、皆様のご自宅を訪問させていただきますますが、その節には、ご協力をお願いいたします。不慣れなことも多々ありますが、お気づきのときは声をかけていただくと幸いに思います。

皆様どうぞよろしく願いたします。



松風会に若い人の参加をお待ちしています

会長 田中 利子

前回の「ひだまり」でご挨拶をさせていただいてからあつという間に半年が過ぎてしまいました。初めにお約束したように、何かあるときには、どの会合にも余程のことがない限り参加させていただき、若い方たちとたくさん交流を持つことができ、小さな子どもさんからも「こんにちは」と声をかけてもらえるようになりました。時には、嫌な思いをしたり悲しくなったり：：そんな時、まだまだ自分の至らないところが多いのだと反省の毎日です。おかげさまで新しい会員さんも増え、とても感謝しております。松風会も若い方々にもっと参加して欲しいと思います。「松風会使い」を出して呼びかけております。60歳から入会できますので会の活性化のためにもたくさんの方に参加していただけるよう紙上をお借りして願いたします。

〈担当地域〉

有元佳子

4 街区～10 街区 (1～34)、
11 街区～16 街区

伊藤和子

1 街区～3 街区、10 街区 (35～44)、
17 街区～25 街区



皆楽荘にて忘年会を終えて
本当によい笑顔です！

松の実会



大切にしたい松の実会

代表 有元 佳子

会員が力を合わせお互いに助け合い、励ましながら楽しく笑顔がこぼれた、毎月第3水曜日の松の実会でした。新しく入会される会員も少しずつですが増えはじめています。それに今年は松風会や子ども会、松風台社協の方々との交流も多くあり、お互いの協力でいっそう和やかな会となりました。自治会で、会館の玄関に手すりやスロープをつけてくださり車椅子の利用がしやすくなりました。地域に見守られ定着してきた松の実会を、私たちは大切に運営し、充実した活動にしていかなければなりません。介護保険法では介護予防事業が始まっていますが、対象者となるのは要支援と認定された人たちです。松の実会は介護保険とは関係なく私たちの地域の介護予防事業です。ですからどなたでも参加できます。健康な生活の一助にさせていただきたいものです。

松の実会にはボランティアの力(運営していく人たち)が必要ですが現在足りません。地域の皆様の善意の心をこの松の実会にお寄せいただきたいと切望いたします。

お問合せ先

有元

藤田

子ども会

早いもので、1年があつという間に経とうとしています。役員も初めてのことばかりで、行事のたびに、緊張しながら夢中でやってきました。

11月には社協の皆様のご協力を頂いて、昔の遊びを楽しむ会を行ないました。松風台の多くの方が、子どもたちにいろいろな遊びを教えてくださいました。子どもたちも昔の遊びに夢中でとても楽しそうでした。そして少しでも松風台の皆様との交流がもてたのはとてもステキなことだったと思います。

1年間多くの皆様方のご協力、ご支援を頂きありがとうございました。

====役員一同====



11/18 昔ながらの遊びを楽しむ会にて

H19年度 子ども会の活動報告

- 4月 新入生歓迎会
- 6月 ひみつのお楽しみ会
- 8月 松の実会との交流会
囲碁教室
盆踊りの練習
夏祭り
ラジオ体操
- 10月 キリンビバレッジ工場見学
- 11月 昔の遊びを楽しむ会
- 12月 クリスマス会
- 3月 6年生を送る会

★毎月第2土曜日 公園掃除



香川公民館と松風台

昨年11月2日から3日間、第19回香川公民館まつりが開かれ、わが松風台からも多くの人が参加された。

例を挙げると、当社協の那須会長が「インドネシア滞在記」と題して講演されたほか、「湘北地区社協」が水あめ&味噌おでんをバザーに出店、コーラスの部に「コール香川」のメンバーとして出演されたり、「楽しい男の腕まくり」では、数人がけんちゃん汁を作って提供したり、そのほか木片タイルの工作、昔遊び、警備等々に応援の形で参加した人も何名かおられた。

今回、公民館まつりを見学してみて、そのサークル活動の多さに驚かされた。水彩画、和紙ちぎり絵、木目込み人形、フラダンス、マンドリン・ギター、ハーモニカ、太極拳・剣・扇……等々。

松風台で暮らしていると、香川公民館というと遠くに感じられるが、大中小の集会所があつて地域住民の文化・教養・福祉等のサークル活動のために利用されている。ここでの活動は、松風台という限定された街の集まりではなく、近隣の人たちと一緒にサークル活動を楽しむことで広く交流がもたれ、知己になれるというよさがある。積極的に参加したいものである。

(H)



11/3 公民館まつり バザーで大活躍



木片工作に興じる子どもたち

湘北地区社会福祉協議会とは

湘北地区は茅ヶ崎市の5つの地域（香川、甘沼、鶴が台、松風台、みずき）で構成され、香川、甘沼、鶴が台団地、鶴が台1街区、ライトタウン、松風台、みずきの7つの自治会があり、茅ヶ崎市民の11%が暮らしています。湘北地区社協はこの湘北地区で活動する社協で、20年前に発足しました。自治会や茅ヶ崎市社会福祉協議会と連携して地域に密着した福祉活動を行なっています。

健康づくり講座、公民館まつり、広報の発行、湘北地区の地域福祉を考える懇談会の中のボランティア入門講座、福祉マップ、湘北地区社協のホームページの管理など、これらの活動には松風台の人も多数参加しています。

詳細はホームページ「湘北地区社会福祉協議会」で検索してみてください。

湘北地区ボランティアセンターからのお知らせ

おひとり暮らしの方、高齢者世帯の方、手を貸して欲しいとき、困ったとき、センターにお電話ください。

毎週 月・木曜日 午前10時～12時

電話番号：27-2030

☆時間外は留守番電話で受け付けています。

☆ボランティアも募集中です。

編集後記

編集委員が集まって会議、その後は雑談となり、皆、団塊世代あるいは高齢者とあつてもっぱら話題は健康について。落ち着いたところは、禁煙・節酒。次号発行までに達成できるでしょうか？ (T)